

BAMBOO+（バンブープラス）生誕祭概要

1 会の趣旨

- ・東海理化、ミロクテクノウッド、県（工業技術センター・紙産業技術センター）の3者で『竹を原材料に用いて竹由来の繊維を活用した環境配慮型複合樹脂「BAMBOO+」』の共同開発を行い、製品化に成功
- ・令和7年3月に香南市赤岡町にBAMBOO+高知工場が完成し、令和7年7月から稼働開始
- ・工場稼働を記念してBAMBOO+生誕祭を実施
- ・共同開発者である大手自動車部品メーカーの東海理化は、開発した素材を量産・拡販することで、石油資源の消費削減や森林環境の保全（地域課題の解決）に繋がるとして、全面的に推し進めたいと考えている

2 BAMBOO+の概要

- ・東海理化、ミロクテクノウッド、県（工業技術センター・紙産業技術センター）の3者で共同開発
- ・竹繊維を配合することで、石油由来の材料使用量を約半分まで削減可能なうえ、特殊な設備を使わずに射出成型ができる画期的な新素材
- ・BAMBOO+高知工場には、集材された竹のチップ化からペレット状の複合材料を製造するまでの一貫ラインを設けており、自動車部品製造で培われた品質管理のもと、成形メーカーに届けられる
- ・2026年以降に発売が予定されている市販車にBAMBOO+の採用が初めて決定（オーナメントパネル：コンソール上面とスタートスイッチベゼル）
- ・竹材はLEXUSブランドのシグネチャーマテリアルであり、これまでもハンドルなどで活用されてきたが、これまでは竹の太さに制約などがあったところ、チップ化されることにより細い竹や曲がった竹でも使用可能
- ・本県の中山間地域において課題となっている放置竹林も原料として活用可能であり、中山間地域の振興及びサーキュラーエコノミー（循環型経済）の実現に貢献することが期待される